

橋詰良一著

## 「家なき幼稚園の主張と実際」より(四)

### 第七 若き保母の修養

私は前にいった通り、単に純情を持つ娘と神性の輝ける

幼児とを結び合わせておきさえすれば、おのずからのうち  
に自然の愛の発露となり、愛の道場の構成となり、また幼

児保育という方面から見ても、さまざまなかた案や創意が現  
前するものであると確信していますが、若き保母の心の養  
い、品性の修養といふようなことについては、全然何らの  
考慮をも要しないとするのはありません。

むしろ、大いに読書し、大いに修養しなければならない  
ことを力説するものであります、いたずらに難解の書物  
を机の上に置いて誇りとしたり、高尚な名の書籍をかかえ  
まわつて、かえつて各自の謙徳をそこなうようなことのな  
いようと願つておりました。

それで、わずかに四、五種の書籍を選んで幼稚園の賓典  
とし、常にこれを味読するようによすすめまいりました。

その賓典というのは、

一、自由教育論

(小原国芳著)

一、幼稚園の理論と実際

(森川正集著)

一、児童の生活と芸術

(島村民藏著)

一、新興芸術と新教育

(志垣 寛著)

一、子どもの遊びせ方

(阪内みつ子著)

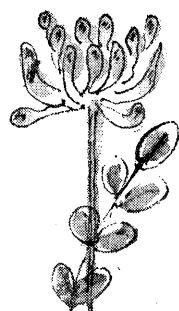
一、母のための教育学

(小原国芳著)

一、我が子の教育

(西村伊作著)

右のようなものであります、フレーベルやペスタロツ  
チの教育書は割合にその多くを各園に蔵しています。



### 高師の保母科へも

このように保母の各自が自習自学して、子どもの国に同和する道を創意し発明するよう祈願する一方において、大自然を園舎とする神の國の心を根底にひかえてから、更に進んだ保育教育の研究を重ねることも非常に必要なことであると考えて、一两年以来はわが園からの選抜者を奈良の女子高等師範学校保育科へ留学させてまいりました。

これは今後もながく、多く続けて行きたいと願つていてことで、更に進んでは海外への留学者をも派遣して世界的の考究をもたさせたいと思つています。

清きに触れて児童愛の道を大成したいと祈つてゐるのあります。

素人主義といつても、かの卑しい高ぶりから逃れたいための方策であつて、決して無智のみを尊奉するものでないことを改めここに言明しておきます。

### 保母総会と交代勤務案

各地の家なき幼稚園の保母三十人ばかりある園に集

めて、互いに違つたことを聞いたり話したりするのは何よりも楽しくタメになることだと思います。

他の園とはちがつて、ほんとに肉身の兄弟のような幾つかの園が事情の異なつた場所に成育している現状を利用し、折々その人々の親睦会を開くことにしていますが、研究よりも遊ぶことが主になりやすいきらいはあります、まことに楽しいものになっています。

それと同時に、兄弟なればこそできるのだと思われる案は、折々入れかわつて、三日か一週間かの交代勤務をしあうことですが、これは考えたままで実行していません。それには何らの支障もないのですけれど、私があまり多用なためについ手が回らなかつたにすぎませんが、近く実行するつもりです。

こんな後には、必ず意見の交換をして、それを記録しておこうですが、互いに語りあううちに得る啓発の尊さに、今更ながらおがまれます。

### 参観の奨励

私はまた他の幼稚園の参観を極度に奨励してまいりました。ほんとに百聞の一見に及ばざる場合をたびたび実験し

できました私は、つまらぬ教えよりも他の参観のまさる」と幾百倍なるを信じていますので、暇があつたら、参観せよ参観せよとすすめてまいりました。

それには、やがて謙虚を要とする趣旨をいい添えるのが常であります。若い人たちは相応に私の心持ちをのみ込んでくれて、大概是よく学んでくるように思いますが、この謙虚さを受取らずに、かえって妙なことを言う人のあるのに驚きます。ある園にまいりました時に

「家のない幼稚園の人が、家のある幼稚園を参観して何になさるのですか……」

「見なさるのではなくて、穴ひろいに来なさるのではありますか……」

と言つたような、露骨にして、醜悪な言葉を弄されたのをも忍んで帰つた談がありました。

ほんとにイヤな世の中だと思わせられることがたびたびあります。それが若い娘たちには言つております。でも、見てきた所感にはなかなかがつたのもあります。

### 参観記の一

栄子

第一日（三月十日） K幼稚園

十時ごろ急いで○○○幼稚園へ行つてみましたが、誰も見えないので、仕方なしに線路をわたつて○○○幼稚園を訪ねながらまいりました。

今井先生がお一人で、小使も使わないで、二十人ばかりの園児をあずかつていらっしゃいます。その日は十五人しかきていたなかつたので静かなことは、これでも幼稚園なのかと思ったくらいです。男の子も女の子とほとんど一律の行動をしていたことは、私らには意外でした。

わずかな園児だから一人一人の個性をよく見て、各その個性の向かう所に発展させてやることは、この園ではいくらでもできるだろうに、何だか上からおさえつけられて、ある程度以上にのびることを許されていないような感じがしました。言葉使いといい、動作といい、ひつ竟

子どもの境遇が揃い、年もかなり同じくらいだからいつわりのない所かもしれないが、これがもし幼稚園においてのみの言葉や、動作だとすれば、子どもはどんなにきゅうくつなことでしょう。

子どもの絵の上手なのに何より驚きました。めいめ

いのブックに自分の造った手技を張らせるようにしてあることと、帰りに「さよなら」のお唱歌を歌わせることはいいでしょう。この保育案は一週間ずつ作られてあるそうです。一日も早く園児の揃うことを祈って午後三時半ごろ帰路につきました。

### 第三日（十一日）○○○学院附属幼稚園

十時ごろお遊戯の最中におうかがいました。主任の先生がお休みで若い先生がお二人でやっておられました。ここも園児が七十五人だそうです。この子どもを見た時にア、これが真の子どもだと思いました。何ものにもはばかる所なく、自分の思うままに、したいままにやっています。また先生もいちいち干渉ならないで、本当にするままでさせてありました。けれど決して無責任なうつやらかし方でないでしょう。子ども自由を与えられた時には相当責任を感じることはおもしろいと思いました。これは池田の子どもを見ても、私はいつもそう思っています。

しばらくの間にガラスは割る、つかみあいはする、やんちゃの程度は池田と少しも変わらないです。泣いた時も、あまりしつこく聞かないで、いい加減にしておく

と、いつの間にか泣きやんで笑っています。ここでも一枚のノートを作つて、書き方の時にはそれにかかせ、自分で造った手技なんかも、それに張りつけるようにされました。お遊戯は、男女別にされていたようですが、これもお遊戯によつていいかも知れませんが、やっぱり遊び時には一緒に遊び、遊戯の時には一緒にさせた方が、遊戯をしていても気が散らないし、遊び時もその方が一層楽しいだらうと思います。ここも帰る時はさようならの歌を歌つて帰ります。これは是非池田もしたいと思いました。主事の先生にお目にかかるて五、六分間お話しして、小学生用の英語のリーダーや学院の絵葉書等をいただきて一時半ごろ帰りました。

### 第三日（十二日）宝塚なき幼稚園

広い芝生、青い松、白い砂、美しい流れ、赤い橋、周囲のすべてのものは私たちをたまらなく羨しがらせる、自然に恵まれているここの中児はどんなに幸せでしょ。けれど今はまだあまりにおとなしすぎます。自由遊びもすべて先生のさせるようにして、お友だちどうしで遊んでいた子どもはごく少なかったと思います。一面の芝生だから、ほこりも少ないと思うのに、食事の時に口

までゆすがせられる、その衛生の行届いたのには感心しました。午後のお稽古が始まろうとしている時に池田からのお淡河さんの凶報に接して私たちは遺憾ながら引上げて池田に帰りました。

こうして私たちの三日間にわたる各幼稚園参観は無事おえたものの馴れない私には、まだまだ目の届かなかつた所の多くあつたことを悲しみます。

#### 若き女性独自の発達

私は保母たるべき女性の独自修養に大きな信頼を持つものですが、先輩の教導なしには到底なされるものではないかと感じられるほどの「手技」でも、いつたん幼児の愛に目ざめた若い女性たちが、そのかわいさにそそのかされ、一生懸命になる結果は、いつともなしに覚えてしまつて、二年たたぬ間には立派な先生の手際を發揮します。

それにはまた相当な教授書もあるので、あまり多くの不自由もないようですが、楽器の奏法等でもずいぶん眼に立った熟達ぶりを示すのに驚かれます。

特に驚くのは保母らしい気持の、いつとはなく養い成されていくことです。この日記の一節をご覧になつたらうなずかれるところがあると思います。

#### ◇ 言葉づかいについて 秋子（大阪）

子どもには否定の言葉を与えないようにそつちへ行ってはいけません、という代りに、こつちへいらっしゃい、といふようにせよと何かの本で読んだことがある。その後私はいつも気をつけて物を言うようにしている。積木をしてはいけませんという代りに、積木はやめてかくれんぼをしましょう、というように。

子どもには、何をしてはいけませんと言うより、ほかの何かをしましようと言つた方がずっとおだやかでもあり、気持ちを伸ばす上に効果がある。ただし急いでいる場合にはいつもその心掛けを忘れてしまう。特に電車の乗り降りなどの場合飛び降りてはいけません、窓から顔を出してはいけません、手を出してはいけません、等、自分の気があせればあせるほど、いけませんを連発してしまう。叱るつもりではない注意するためのいけませんを言つてゐるつもりでも子どもにはお小言に聞こえるとみえて、びっくりして

言うことを聞く。気をつけて、前へ出てはいけません、と  
いう代りに後へ寄りましよう、と言った時には、甘えて何  
度言つても言うことを聞かないことが多い。こうした時に  
は、やっぱりいましめる意味において、いけませんを使つ  
た方がいいかもしない。その瞬間だけずつ子どもを、ち  
ぢませるような気がするけれど。

◇ 困らされるほど

幸子（池田）

日々が無事に過ごしていけるほどうれしくありがたいこ  
とはありません。今年の子どもたちは本当に素直ないい子  
ばかりです。それだけいたずらな子どもが目立つてみえる  
ようにも思います。

みんながいい子になるように努力していきたい。それの  
みが私たちの念願なのです。E坊がいつも問題になりま  
す。問題になるだけE坊さんは意地をはります、もつとも  
つと暖かい心でいたわってやりたいです。本当の愛を注ぎ  
かけてやつたら……と思います。そう思った時人間の愛の  
不徹底さを思わずにはいられません。

きっときつとよくしてやります。けれどお母さまもほ  
りはなしでなく考えてあげてほしい。一人の子どもが素直

になることはどうれしいことはありません。困らされれば  
困らされるほど、何だかたまらなくかわいくなってきま  
す。努力してまいりましょう。子どもたちが共同生活をし  
ているのでなければと、こうした時に思うのです。ほかの  
かわいい子どもたちに何か悪い影響があつたらと。

## 第八 私の保育案

私の野の幼稚園を子どもの国にして、幼児相互の生活を  
便宜に、無難に、健全に、また愉快に、営ませるための  
「保育案」とも言うべきものを簡単に工夫しておきました。

それを厳格な意味での保育案と見てもらつても差しつか  
えはありませんが、私はそれを若い女性たちのため、わ  
ざかなしおりだと考えていました。

この最初の工夫が半年も一年も、そのままに継続するも  
のであらうか、また人々の工夫によつて、どんなに変化さ  
れて行くものであらうかは、全然予想することなしに一む  
しろ適当な変化を希望しつゝ着手したのでありました  
が、意外にも思ったほどの変化なしに、大かたそのままの  
形を七年も八年も持ち続けているには、一種の失望をさせ

感するのですが、これを一面より見れば、あるいはそれだけの変化を要しない特徴を持つてゐるのかとも考えられます。

もしそうだとすれば、わざながらも心丈夫な気がする

ると同時に、最初からの望み通り、簡単で、明りょうで、

無難であるようとの目的にかなつたものだと思われま

太郎ちゃんも

花ちゃんも

みんなで一緒に

なかよくうたいましょう

一同お礼をしてから手をたたいてこの歌をうたいます。

それから記章を集めて先生の手に預かり、お話をしたり、

歌をうたわせたりしながら、外へ出るのですが、このお宮

様にお礼をすることは、今日もまた一日ここで遊ばせてもらいます

いと、感謝のつもりで、いつとはなしに感謝とい

う心を養うことが、幼い時から大切な心性教養上の要件で

あると、私は考へてゐるもので、かすかながらもそれへの

望みをかけてゐるのであります。

### 毎朝のお礼

最初は、吳服の森のお宮の前に毎朝集合することに定め

たのですが、お宮様という対象に直面しますため、どうし

ても朝のごあいさつをさせたくなります。そこで次のよう

な歌をつくって、それを歌わせることにしました。

### 一 お宮の神様おはようさん

お遊戯してからどうしましょう

### 回遊

山にしようか

川にしようか

先生と一緒に

どこへでもまいります

### 二 私の母様お当番

お手々をひいて遊びましょう

この「回遊」と私の名づけておりますものは、幼児が大自然の中を縦横自在に歩き回ってその大自然を通じた神の心に神の靈に達しさせようとするフレーベル氏等の提案を最も簡明に具体化した方法として尊び用いようとする案で、川に行けば水に遊び、石を積み、山には自然の音楽に耳をかたむけ、野には神秘の妙景に目をよせて歌いながら

歩きながら、自然の観察をあくことなしにさせようとする唯一の保育案であります。砂箱もその中に、粘土もその中に、自由画の画題もその中であります。お話をその中で、童話劇もその中で、大きな自然を生きたバックとして自由に演出することができるのであります。この回遊をむさぼっているわが園の生活状況を見て、まことに放浪的な、無意義な、粗策な方策であるように評する人々にいくらもの後出会いましたが、これはほとんどそのすべてが、回遊の真意を了解してくれない、浅薄な批評にすぎないもので、たまたま評者の愚を氣の毒に思うことはあっても、それによつて別のより深い啓示を得たことはありません。

この回遊には簡単な楽器や、こざ等、子どもの後から車で運んで行つて、野をそのままの音楽室、遊戯室にするのが最も愉快な仕事になつております。

(中略)

#### 遊具は木煉瓦

先に準備の時に申しました木煉瓦を、最初は小二百個、二倍百個、三倍五十個（後に四倍五十個）を絵馬堂の中に積んでおいて、お宮の広庭で勝手気ままに積ませることにきめたのですが、これは実に旺盛な幼児の創作欲と、大き

なものを好む子どもの境遇とに合致したものとみえて、今もなお非常に歓迎され日々大きな創作を試みております。

この煉瓦というものの大きさがいかがなる標準によつてつくり出されたものかは知りませんが、横にも縦にも厚さにも、それを倍加すれば必ず正方形をつくつて行くこの大きさが建築の要素をなしてゐるようすに、子どもの創作の要素にも採用されやすいものと見えます。これほど便利な愉快な自然遊具が今まで閑却されていたことを、むしろ不思議に思うのです。

(中略)

#### 室内の作業

雨の日や、酷暑の日など、野外の遊戯保育に適しない場合を、室内の作業にあて、最初は絵馬堂の下で折紙や自由画やその他の手技をやらせることに想定しました。その時にはこざを敷いて、それへ腰をおろしその前へ畳椅子をおいて、その椅子の上にボール紙の板やまたは粘土板などを置いて簡単に机の代用とさせる案を工夫していましたが、これも相応便宜なものとして持続されています。

(つづく)